

防除所ニュース

平成26年 第1号

発行 平成26年4月11日
京都府病虫害防除所

★ 麦類 赤かび病 情報

3月第4半旬以降、平年より暖かい日が続いていますが(図1)、それともなまって麦類の生育も平年より進んでいます。農林センター作物部の調査では、二条大麦「サチホゴールド」の出穂期(現地ほ場、11月上旬は種)は既に4月4~10日頃に迎えており、小麦「農林61号」の出穂期(農林センター内ほ場、11月12日は種)も4月17~19日頃と予想され、平年より1週間程早くなっています(平年値:「サチホゴールド」4月10日(H23-25)、「農林61号」4月26日、どちらも農林センター内ほ場)。

麦類の赤かび病(写真1)に対する1回目の防除適期は、二条大麦では穂揃い期の10日後頃(蒴殻の抽出期、写真2左、出穂期の14~16日後)、小麦では開花を始めた時期(出穂期の4~5日後)から開花期(写真2右)とされています。そして2回目の防除適期は1回目の1週間後とされており、上記の生育状況を参考に、それぞれの地域での防除計画を立ててください。

特にこの時期に赤かび病菌の子のう胞子の形成、飛散を促す気象条件(日最高気温が15℃以上、日最低気温が10℃以上で、湿度80%以上か降雨直後)が重なりますと、赤かび病に感染するリスクが高くなりますので、防除適期を逃さないようにして下さい。

さらに収穫期までに降雨が続き、赤かび病発生の兆候が見られる場合は、直ちに追加防除を実施して下さい。



写真1 赤かび病(矢印、小麦)

防除上の注意事項

- (1) 出穂期、穂揃い期、開花期は品種、は種時期、ほ場の場所、栽培条件等で異なるため、出穂や開花状況をよく観察した上で防除適期を判断して下さい。
- (2) ほ場の水はけが悪いと生育・出穂が不揃いとなり防除効果が低下しやすいので、排水対策はしっかりと実施しましょう。

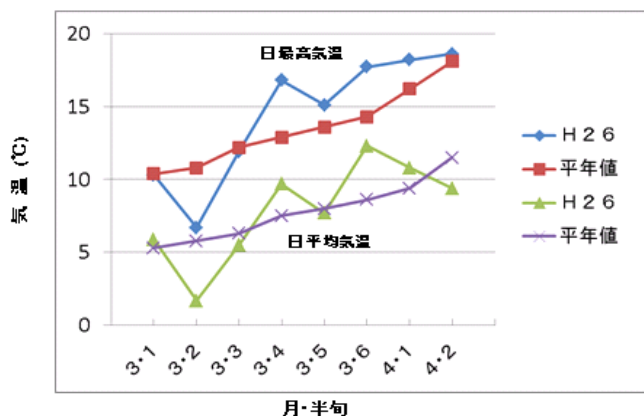


図1 気象データ(京都府農林センター、亀岡市)

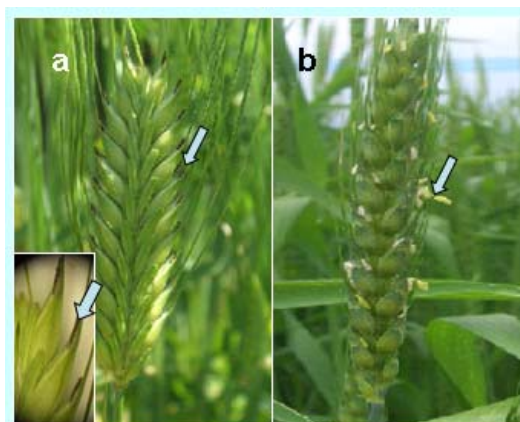


写真2 麦類の防除適期(1回目)

a: 二条大麦の蒴殻の抽出(矢印、左下: 拡大写真)
b: 小麦の開花(矢印)